



6月に入り雨の日が多くなりました。6月2日には、大雨となり下校時の安全確保のため、職員が児童に付き添って下校しました。6月8日には、関東甲信地方の梅雨入りが発表されました。6月は雨の日が多くなりましたが、晴天の日を逃さずに、全ての学年でプールでの学習がスタートできました。安全と感染症対策を心掛けて、プールを活用していきます。

6月6日・7日に5年生の林間学校が実施されました。雨が心配されましたが、夜に予定されていたナイト追跡以外の活動を無事に実施することができました。林間学校を通して、5年生の児童は、自分たちで考え判断し行動する力が養われたと感じています。まだまだ個人間の意識の差はありそうですが、6年生の後を引き継ぎ相川小学校のリーダーとして活躍することに向けてのよいスタートが切れたようです。今後の5年生の成長を期待します。

5年生の林間学校の様子は相川小学校ホームページ内「相川小ブログ2023」で紹介しています。本紙の上部にあるQRコードからアクセスできます。ぜひ、ご覧ください。



小中合同引き渡し訓練 ご協力をありがとうございました

6月1日（木）に、小中合同引き渡し訓練が実施されました。保護者の皆様のご協力により滞りなく引き渡しを実施することができました。感謝申し上げます。

本校では、3年前より、児童を校舎内で待機させた上で、保護者の皆様のご来校いただけるタイミングで引き渡す形式に変更しました。それまでは、保護者の皆様に一斉に校庭に集合していただく引き渡しを行ってまいりました。しかし、有事の際に保護者の皆様に一斉に同時刻に集合していただくことは困難であると考えます。保護者の皆様が一斉に集合することが難し

いとなると、児童が長時間、屋外で待機することになります。

今回の引き渡し訓練は、南海トラフ地震臨時情報が発令された場合を想定していました。甲府市内の公立小中学校は震度6強以上の地震に備えて耐震化されています。南海トラフ地震臨時情報が発令された場合には、すぐに避難できる態勢を整えた上で、耐震化された校舎内で保護者の皆様のお迎えを待ちます。保護者の皆様への引き渡しは、地震だけでなく、大雨や大雪の場合にも想定されます。今後も有事に対応できる形での引き渡し訓練を実施して参ります。

いじめを見逃さない



「いじめ」の定義

平成18年度にいじめの捉え方が見直されました。いじめの定義は以下の通りです。

当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。

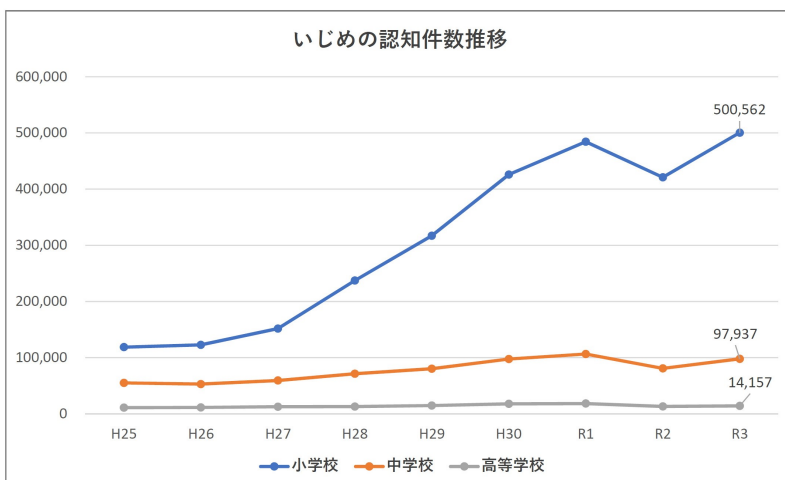
児童本人が「いじめ」と捉えればそれは全て「いじめ」です。その児童に落ち度があるとか、言動に問題があるとかは一切関係ありません。児童本人が「いじめ」と捉えれば「いじめ」の認知として捉えていきます。



「発生」から「認知」へ

いじめの定義の変更により、問題行動等調査でのいじめの件数の呼称は「発生件数」から「認知件数」に改められました。いじめという行為は、そもそも第三者の目には見えにくく、完全に発見することは不可能です。教職員が捉えたいじめの「発生件数」を信じていては、いじめの本質を見逃す恐れがあります。児童がどれだけいじめを認知しているかに目を向け、積極的にいじめの解消に取り組んでいくことが重要です。

下のグラフは、いじめの認知件数の推移です。年々いじめの認知件数が増加していることに問題を感じがちですが、それは正しくありません。むしろ、いじめの認知件数が減少してい



た場合に、教職員がいじめを見逃したり見過ごしたりしているのではないかと心配すべきです。



相川小学校の対応

相川小学校では、児童のいじめの認知をできる限り正確に捉えるために、学期に1回の友達関係アンケートを実施します。また、学級集団の状況を客観的に捉えるために、「Q-U」を年2回実施します。6月14日には、いじめに関する職員研修会を実施しました。

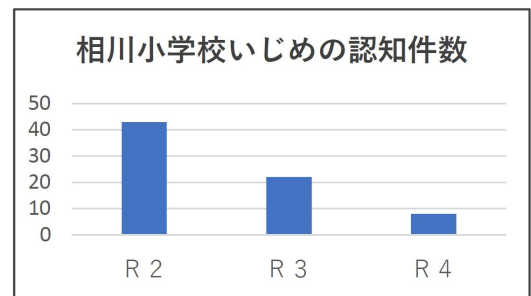


いじめを見逃さないために

下のグラフは、相川小学校の過去3年間のいじめ認知件数です。いじめの認知件数が減少していること心配しています。

いじめを見逃さないために、本年度は、年3回の友達関係アンケートの他に、無記名のいじめ認知に関するアンケートを実施することにしました。

いじめを認知した場合には、職員が1名で対応にあたるのではなくチームを編成し、ご家族の皆様とも連携しながら、複数の目できめ細かな対応を実施します。相川小学校のいじめへの対応は、「いじめ防止基本方針」（令和5年度版）にまとめてあります。ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。



相川小学校
「いじめ防止基本方針」
令和5年度版

